

# はじめに

## ～移転50周年に寄せて～

明治40年4月、和歌山県立農事試験場が海草郡宮村、現在の和歌山市太田に創設され、今年で110年に当たります。その後、時代の移り変わりの中で、組織の再編が進められ、昭和42年7月には、農業試験場本場が、現在の紀の川市貴志川町高尾に移転整備されました。今年でちょうど50周年の記念すべき年を迎えます。

この50年間、社会情勢や農業を巡る環境は大きく変貌を遂げてまいりました。

昭和36年「農業基本法」が制定され、昭和40年代には食糧増産の時代から「コメ減反政策へ」、また、昭和50年代以降は、消費者ニーズの多様化など「量から質へ」と農業の姿も大きく変わりました。

近年では、担い手の高齢化に加え、地球の温暖化など気候変動や環境、食の安全安心、さらに地域のブランドづくりなど、生産現場が直面する課題は益々多岐に亘っております。

これまで、試験場では時代背景や現場のニーズを踏まえ、関係者の皆様方とともに、水稻奨励品種の試験をはじめ「きしゅうすい」や「和歌山ダイコン」、「まりひめ」などの県オリジナル品種の育成、地域特産作物の栽培技術、太陽熱土壤消毒などの病虫害防除技術や土壤肥料など地域重点的な研究課題に取り組んで参りました。

このたび、50周年を記念して、関係の皆様方に感謝と敬意を表しつつ、近年の研究成果の中から、普及が期待される品種・技術をセレクトしここに紹介いたします。

今後とも、本県農業の飛躍発展のため、国、大学等研究機関との連携をより深めるとともに、地域に根差した研究機関として、生産者、JA等の皆様と一体となって生産現場の課題解決、現場が動く技術革新に取り組んで参りますので、何卒よろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い致します。

平成29年11月

和歌山県農業試験場

場長 木下 繁 慶

